

## 公益活動報告書（市民活動実績報告書）（令和4年度分）

（宛先）岡崎市長

令和 5 年 4 月 13 日

団体名 すいか隊

代表者 佐野 章子

構成員 12 人

（※令和5年4月1日時点

の構成員数）

団体の目的：団体の会則・規約に定められた団体の目的を記入してください。

本会は、多様性社会の推進活動を通じて、岡崎市民の意識の向上と生活スタイル改善に寄与することを目的とする。

私達の団体が掲げる目的を実現した活動を、以下の項目に従って報告します。

なお、記載内容を一般に公開することに同意します。

## ■ 1 団体の活動目的達成に向けて、今年度はどんな活動をしましたか（公益活動に限る）。

活動日 又は期間	場 所	受益者※		活 動 内 容	効 果	分類 ※
		会員以外	会員			
7月24日	（広幡学区 市民ホーム）	25	3	感染症を考慮した避難所つくりの防災講話と防災クイズや風呂敷包みの活用で防災を考える、	（感染症防止のため 中止）	2・3
8月7日	梅園学区 市民ホーム	10	4	避難所運営疑似体験を HUG ゲームを通して行った	非常時において、男性 女性視点の防災や弱 者や多様性に考慮し た防災など、疑似体験 から、いろいろな観点 からの意見を出し合 い、学ぶことができた	2・3
10月19日	本宿学区 市民ホーム	19	3	ハイゼックス・ポリ袋を使 った非常食の作製と、段ボール ベッド作製を行った	男女共協力して、非常 食作りを行い、また、 段ボールベッド作製 は初めての人が多く、 避難所運営に際し、知 識を得ることができ た	2・3
10月30日	緑丘学区 市民ホーム	32	3	ハイゼックス・ポリ袋を使 った非常食を作製し、非常時に 役立つアイテムの紹介や、お 泊まり防災訓練の話、トイレ の使い方など、避難所運営の 講話をした	コロナ禍での非常食 作製なので、メニュー の内容や作業工程を 工夫した。災害時の炊 き出しをイメージし 屋外での研修をした。	2・3

					また、避難所運営の話 を聞き、実地訓練を通 して学びことができた	
11月12日	六ツ美中部学 区市民ホーム	20	3	岡崎もぐざえもん体操、サル コペニア予防体操、歌や手踊 りとポッチャゲームを行っ た	歌と体操で健康促進 になり、男女共楽しく ゲームを行い、地域活 性化の一助になった	2・3
11月19日	安城市民交流 センター	97	5	防災訓練研修会を避難所運 営疑似体験として、HUGゲー ムを通して行った	連合町内会の組長、老 人クラブ、消防団、要 支援者本人と民生委 員、ボランティア団 体、中学生ボランティ アなど、色々な世代や 環境の人たちとの意 見交換があり、それぞ れの立場での配慮の しかたなどに、多くの 気づきがあった	2・3
11月26日	社会福祉 センター活動室	14	7	10周年記念講演会として、 定年後の増進的な生き方を 考える講演会を、対面とリモ ートで行った	講師の先生をお招き し、定年後の生活を。 増進型に生きるコツを 見いだせた 講演会を対面とリモ ートで行えるように、研 修会や打ち合わせと、 ZOOMの練習を重ねて。 入念に準備を行い、実 施することができた	2・3
2月18日	リブラ301 会議室	44	6	高野史枝監督「おっさんずル ネッサン」の映画鑑賞を行 い、その後の監督のワークシ ョップでは、映画製作や男女 共同参画観点からの意見を 聞き、さらに共同参画を考え た	ドキュメンタリー映画 の鑑賞により、生き活 きと生活している男性 たちの生き方を観て、 男性女性のセカンドラ イフについて、監督か らの話があり、個々の 意識向上につながった	2・3

3月2日ー 3月7日	りぶらギャラリー ースペース	約 100人	4	パネル展にて、本会の活動 紹介、事業の報告パネル展 示	すいか隊の名前を広 め、興味を持ってもら うことができた	3
---------------	-------------------	-----------	---	-----------------------------------	------------------------------------	---

※**受益者**団体が提供したサービスを受けた人

※**分類**①=人を助ける活動 ②=活動の担い手を育てる活動 ③=人々を啓発し、団体の目的を広める活動  
☆活動についてチラシ、報告・記録などがありましたらあわせてご提出をお願いします。

■2 前項1に基づき、活動の公益性を自己評価し、付随する質問にお答えください。

①公益性の度合いを自己評価してください（数字に○をつけてください）

高い ← ⑤ 4 3 2 1 → 低い

②上記の評価をした理由をお書きください

- 少ない隊員数でも、一人ひとりの多様性社会推進への意識が高く、コロナ禍で中止になってしま  
った活動もあったが、準備段階において、多くの市民へ新しい情報を伝え、意識改革を図った。
- ・市民の参加協力をいただき、活動評価も高かった。市民に対し意識改革がなされ、多様性を考慮  
した役割分担の必要性を考えるきっかけになった。
  - ・隊員は日々活動を行うに際し、各種研修やセミナーに参加し、自己研鑽に励んだ
  - ・岡崎市の多様性社会実現のため、他団体との協働に努めた。
  - ・隊員のみならず市民に向けて、時代にあった問題を提起し、多様性についての興味を深め、  
問題解決に向けて尽力した。
  - ・講演会開催にあたり、対面リモートの同時開催に挑戦し、ZOOM研修や練習を重ね、入念に準備を  
して開催できたことは、コロナ禍でも工夫を重ね、前進していった